

第13回 BLM運動と社会的弱者の再生産

明治大学政治経済学部
専任講師・博士（経済学）
下斗米 秀之

2020年5月、ミネソタ州ミネアポリスで黒人男性ジョージ・フロイド氏が取り締まり中の白人警官に首を押さえつけられて死亡する痛ましい事件がおきた。SNSを通じてこの事件が拡散されると、2010年代より広がっていた黒人に対する暴力や人種差別に抗議する運動「ブラック・ライブズ・マター（BLM）」は、国際的にも注目されるようになった。

その一方で、黒人差別の歴史的背景や構造分析を欠いた日本の報道が国内外から波紋を呼んだ。番組で描かれた黒人は過度に筋肉質な外見で、乱暴で粗野な言葉づかいが強調され、このステレオタイプはアメリカでリンチや警察暴力で黒人の命を奪うことを正当化してきた歴史があったからだ。(アメリカ研究者13名が6月12日にNHKに送付した要望書「NHK『これでわかった！世界のいま』(2020年6月7日放送)の番組内容とSNSでの投稿に関する要望書」より一部引用)¹

アメリカでもディズニーランドの人気アトラクション「スプラッシュ・マウンテン」に改変を求める声があがっている。このモデルとなったディズニー映画『南部の唄』は、奴隷制の影響が色濃く残る19世紀末に刊行された小説が原作である。当時のアメリカ南部で白人と黒人とが仲良く交流する描写が不自然だとして、1986年以降、一度も再公開されていない。『風と共に去りぬ』の動画配信が一時停止されたことも、黒人描写や奴隷制を肯定するストーリーが問題視された点で同根である。

この問題を理解する鍵は、米国史に深く根付く「制度的人種差別」である。これは黒人が黒人として生まれただけで、以後の人生が自動的に不利になる悪循環、個人の自助努力では克服しがたい構造的な差別を指す²。制度的人種差別は囚人たちの安価な労働力を利用した刑務所ビジネスでも顕著だ。アメリカの「薬物との闘い」(麻薬撲滅戦争)で逮捕・投獄される黒人の確率は、白人の実に4倍である。最近ではここにラテン系移民も加わる。

経済史家テミン³によれば、独立宣言中の「すべての人間は生まれながらにして平等である」という記述の意味は、すべての白人男性は生まれながらにして平等である、という意味だ。建国の父たちも、歴代大統領の多くも奴隷主だった。いまはトランプ大統領がアメリカを「白人の国」にしようとしている。テミンはさらに、FTE(金融・技術・電子工学)と「低賃金部

¹ アメリカ研究者13名が6月12日にNHKに送付した要望書「NHK『これでわかった！世界のいま』(2020年6月7日放送回)の番組内容とSNSでの投稿に関する要望書」より一部引用。詳しくは以下をご覧ください。「緊急リレートーク：ブラック・ライブズ・マター運動の背景と課題(録画)2020年6月21日(日)」

<https://www.youtube.com/watch?v=OBZ07SUfCBU&feature=youtu.be>

² 貴堂嘉之「「黒人よりもアジア人が差別されている」の誤解 日本人に教えたい米国の「制度的人種差別」文春オンライン、2020年6月23日。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e2663dc154439dd7f0e9424800b2454a81b54282?page=1>

³ ピーター・テミン『なぜ中間層は没落したのか—アメリカ二重経済のジレンマ』(慶應義塾大学出版会、2020年)

連載 アメリカ経済史に学ぶ

門」とに分断されたアメリカ経済の二重構造化への変化が黒人の大部分を従属的な地位に押しとどめているという。いまなお、社会的弱者は再生産され続けているのだ。

最後に「緊急リレートークのブラック・ライブズ・マター（BLM）運動の背景と課題」の動画で印象的だった言葉で締めよう。「沈黙は不正義への加担である」。

—以上—